研究タイトル：

1960 年代～80 年代筒井康隆作品研究

氏名：	松山　哲士／MATSUYAMA Satoshi	E-mail：	mtymsts@fukui-nct.ac.jp
職名：	助教	学位：	修士（文学）

所属学会・協会：	日本近代文学会、昭和文学会、阪神近代文学会、関西大学国文学会
キーワード：	日本近現代文学、筒井康隆文学、日本 SF 文学、戦争文学
技術相談 提供可能技術：	・同時代コンテクストを考慮した文学作品の精読の方法 ・新聞、雑誌の記事や、研究論文など、データベースを用いた資料の調査方法 ・著書目録や作家の事典項目の作成方法

研究内容：

筒井康隆（1934-）は、星新一や小松左京などと並び「SF 第一世代」と称され、日本の SF 界を牽引した作家です。パロディやスラップスティックな笑いを得意とし、初期にはナンセンスな SF 作品を発表しました。また、1970 年代よりメタフィクションの手法を用いた前衛的な作品を発表し、SF と純文学との境界を越えるような実験作を多く創作しました。「虚人たち」が第 9 回泉鏡花文学賞（1981 年）、「夢の木坂分岐点」が第 23 回谷崎潤一郎賞（1987 年）、「ヨッパ谷への降下」が第 16 回川端康成文学賞（1989 年）、「朝のガスパール」が第 13 回日本 SF 大賞（1992 年）、「わたしのグランパ」が第 51 回読売文学賞（2000 年）、「モナドの領域」が第 58 回毎日芸術賞（2017 年）を受賞し、芸術文化勲章シュヴァリエ（1997 年）、紫綬褒章（2002 年）、日本芸術院賞・恩賜賞（2022 年）などの功績を残す、現代日本を代表する作家です。

【研究視点①】筒井康隆と「疑似イベント」思想との関連
「疑似イベント」思想とは、アメリカの文明史家 D. J. Boorstin によって提唱された概念です。1962 年当時のマスメディアによって「合成的な新奇な出来事が社会に充満している」状態のことを指し、マスメディアが事件を誇張して報じ、社会の関心を集める様子を定義づけました。筒井は Boorstin の書『The Image: A Guide to Pseudo-Events in America』（1962 年）に影響を受け、作品創作に取り入れました。その結果、マスメディアの過激な報道によって戦争が扇動されていく、「東海道戦争」、「48 億の妄想」、「ベトナム観光公社」などの戦争 SF 作品が創作されました。
私はこれまでにこの 3 作について詳細な作品分析と、同時代コンテクストの調査を行い、研究成果として口頭発表の実施や学術論文の執筆を行ってきました。これにより、筒井が SF という虚構の言説空間を利用して、当時の社会を風刺していることを明らかにしました。また、同時代の新聞や雑誌の記事を多数引用することにより、当時の社会状況と筒井作品との関係性も究明しています。

【研究視点②】筒井康隆と「内宇宙」思想との関連
「内宇宙」思想とは、イギリスの SF 作家 J. G. Ballard が提唱した、宇宙空間や未来の科学技術を主題とする従来の SF の限界を超克しようとした新たな SF の理論です。その空間は、1968 年に「人間精神の内部を表す空間」として表され、初めて人間の無意識の領域が SF の主題として扱われました。筒井は逸早くこの「内宇宙」思想を日本に紹介し、作品創作に取り入れました。その結果、主人公の「内宇宙」の空間が綿密に描かれる、「脱走と追跡のサンバ」、「虚人たち」、「夢の木坂分岐点」などの作品が生み出されました。
私はこれまでにこの 3 作についても研究を行ってきました。従来の小説にはない斬新な表現技法にのみ注目されてきた 3 作ですが、私は語られる物語の内容にも着目し、文学的主題に迫りました。それは、主人公の精神世界という「内宇宙」を表現することの必要性であり、物語内容に注目することにより初めて明文化することができました。特に「夢の木坂分岐点」に関する学術論文は、学術書の中で引用・紹介された実績があり、学界に深い影響を及ぼしています。